

国際会議 GLOBAL2013 に参加して

東京大学工学系研究科原子力国際専攻

田中 毅

2013年9月29日から10月3日にかけて、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレイクシティで開催された国際会議 GLOBAL2013 に参加した。この会議は、再処理技術から核不拡散、社会受容性等に至るまで核燃料サイクルに関するあらゆる側面を対象としたものであった。その中でも、私は **Proliferation Risk Assessments and Methodologies** というセッションで発表を行った。タイトルは **Quantitative Assessment of Proposals on Assurance of Nuclear Fuel Supply** (核燃料供給保証に関する提案の定量的評価) であった。以下では、私が発表を行った際の感想と、他の発表のうち特に印象的であったものの感想を述べる。

まず私の発表に関する感想であるが、第一に聴衆の国籍が実に多様であることに驚いた。米国はもちろんのこと、中国、韓国、ロシア、フランス、ベルギーなど多くの国からの研究者、学生の前で発表や質疑応答を行った。バックグラウンドが多様であるだけに、日本ではあまり受けられないような質問やコメントをもらうことができた。私の研究テーマである、核燃料供給保証や核燃料サイクルの国際化においては、国際的な視点が極めて重要であり上記のような経験は非常に有意義であった。また、個人的な課題として、英語力の向上が必要不可欠であると痛感した。発表後の質疑応答において、日本語であれば自分の主張をより分かりやすく、より正確に相手に伝えることができたのでは、との思いがあるためである。

次に、他のセッションの発表を聞いた感想を述べる。今回の GLOBAL2013 会議で特に印象に残ったセッションが二つあった。一つ目は、**Lessons Learned from Fukushima Accident** というセッションである。このセッションでは、日本だけでなくフランスなどからの発表者が福島原発事故や汚染地域の除染などについての発表を行っていた。特に発電所内で作業を行うためのロボット開発に関する発表が印象に残っている。二つ目は、**Nuclear Material Attractiveness** というセッションである。私が所属する研究室においても **Material Attractiveness** という概念に注目しており、今回の GLOBAL2013 会議では **Figures of Merit (FOM)** という指標を提案した **Los Alamos National Laboratory** の **Bathke** 氏の発表を聞くことができた。実際に直に話を聞くことによって、論文を読むことで得た知識を再確認、あるいはさらに深めることができ、非常に良い機会であった。

最後に、今回の GLOBAL2013 会議に参加するに際して、渡航費支援を行って頂いた日本原子力学会再処理・リサイクル部会の皆様に深く感謝します。

以上